

沖縄発・赤土対策型ベチバー素材の地域循環モデル構築プロジェクト SHIMA Vetiver Circulars(しま・ベチバーサーキュラズ)

プロジェクトチームの 目的

本プロジェクトは、赤土流出防止に用いられるグリーンベルト・ベチバーの「葉」を活用し、リグニンの熱硬化性を利用したボタニカル素材を開発する。キーホルダーやコースター等の製品化を進め、リースやディフューザーなど他の製品プロジェクトとも連携し、農家・福祉施設・学校と協働する地域循環モデルの構築を目指す。

解決したい課題

降雨時の赤土流出がサンゴ礁に悪影響を与え、その対策の一つとしてグリーンベルト・ベチバーが採用されているが、刈り取ったベチバーの葉の処理やそれらの作業に伴う農家負担が課題であり、ベチバーの葉の効率的で持続可能な循環利用モデルが求められている。

関連するゴール



活動期間

令和7年9月～令和8年8月
(随時延長有)

おきなわSDGsアクション プランとの関係性

優先課題⑦

⑦-2

持続可能な消費・開発、自然と調和したライフスタイルの形成、廃棄物削減などによって資源循環型の社会を実現する。

活動内容 及び 期待される成果

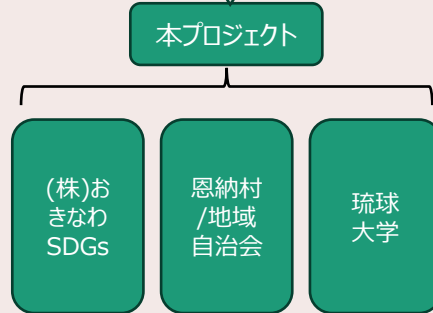
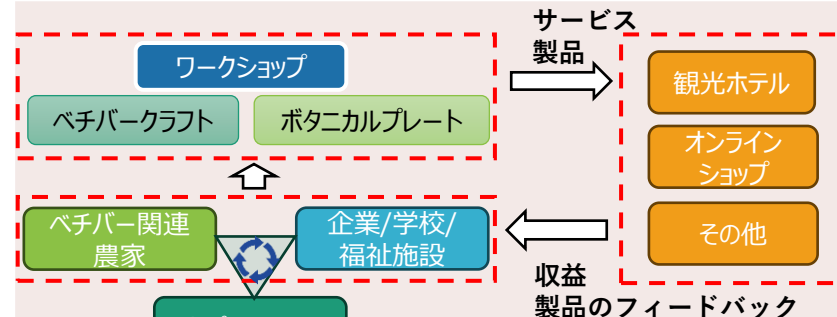
研究活動：ベチバー葉の収集・乾燥・粉碎による原料調達、リグニンの熱硬化性を活かしたボタニカル素材の試作（キーホルダー、コースター等）、製品の強度・耐水性などの性能評価、学会発表や論文発表による研究成果の発信

地域連携：リース、しめ縄、綱、ミサンゴ（ベチバーの葉で作ったミサンゴ）、ディフューザー等の他製品プロジェクトとの協働、農家・福祉施設・学校との共同製造や体験活動、恩納村など自治体との調整・実証実験

普及展開：レーザー彫刻によるデザイン加工で観光土産・ノベルティ化、教育・観光プログラムとしての活用による環境意識醸成、販路開拓（直販、土産店、ふるさと納税返礼品、企業ノベルティ）

本プロジェクトにより、ベチバー葉を活用した新たなボタニカル素材が開発され、キーホルダーやコースター等の製品化や既往のクラフト製品とのコラボを通じて、農家や地域住民に収益源を提供する循環型モデルが構築される。これにより、赤土流出対策に経済的インセンティブが付与され、環境保全活動の持続性が高まる。さらに、福祉施設や学校との連携による製造体験や教育プログラムは、地域住民や観光客の環境意識を醸成し、観光資源としての価値向上にもつながる。成果は学会発表や論文として発信され、沖縄発の先進的な地域資源循環モデルとして全国展開が期待される。

プロジェクトチームのイメージ



本PJは、赤土流出防止に用いられるグリーンベルト・ベチバーの「葉」を活用したボタニカル素材の開発・製品化を進め、リースやディフューザーなど他の製品PJとも連携し、農家・福祉施設・学校と協働する地域循環モデルの構築を目指す。